

夏の素謡

すうたい

仕舞の会

しまい

言葉の響きの美しさ――。

素謡 能の台本を謡い語る
仕舞 能の一部を紋付袴姿で舞う

2019年
7月14日(日)
午前11時開演
(10時30分開場)

Genjō
げんじょう
玄象

浦田 保浩

Yugōyanagi
ゆぎょうやなぎ
遊行柳

観世 清和

Atsumori
あつもり
敦盛

吉浪 壽晃

Takasago
たかさご
高砂

古橋 正邦



場所

京都観世会館

京都市左京区岡崎円勝寺町44

入場料

■ 一般前売 4,500円
■ 一般当日 5,500円
■ 学生 2,500円

全席自由席

チケットのお申込みは、お電話またはホームページから受付承ります。

夏の素謡と仕舞の会

二〇一九年七月十四日(日)
午前十一時開演(十時三十分開場)

高砂

河村 和貴
古橋 正邦
橋本 光史

(地謡)
樹下 千慧
河村 和貴
吉田 篤史
大江 泰正
橋本 光史

敦盛

(仕舞)
知松 和夫
松風 和夫
玉鬘 和夫
船橋 豊彦

吉浪 壽晃
大江 信行

(地謡)
谷 弘之助
大江 広祐
梅田 嘉宏
浅井 通昭

賀茂

(仕舞)
井筒 博重
通盛 邦弘
雨月 雅夫
天鼓 浩行

遊行柳

観世 清和
井上 裕久

(地謡)
河村浩太郎
橋本 忠樹
浦部 幸裕
味方 團

玄象

師長 河村 晴久
ツレ 深野 貴彦
浦田 保浩
分林 道治

(仕舞)
清経 キリ
班女 アト
柏崎 道行
占キリ

休憩二十分

附祝言

(終了予定 四時頃)

主催 公益社団法人 京都観世会

高砂

都見物のため京に上る途中播州高砂の浦に立ち寄った肥後の国の神主友成が、そこで松の木蔭を掃いている對と姥に名所である「高砂の松」はどこかと尋ねると、今木蔭を掃き清めていた松がそうだと答えます。「相生の松」と「高砂の松」の物語、松のめでたさを、御代のめでたさを讃える謡です。「たかさごや」のうらぶねにほるときは、御祝いの席に相応しいように少しアレンジされています。今回は、オリジナルを最初から最後まで聴くよい機会となるでしょう。

敦盛

一の谷の台戦で十六才の平敦盛を討ちとった熊谷次郎直実は、あまりの痛ましさに世の無常を感じ、出家して蓮生坊と名乗っています。敦盛の菩提を弔うため再び一の谷を訪れると、笛の音が聞こえ草刈りの男たちがやってくる。その中の一人と笛の話をしているうち、他の男たちは帰ってしましますが、その男だけが残ったので蓮生坊が不善に思い尋ねると、自分は敦盛の霊であることをほのめかします。その夜蓮生坊が敦盛の霊を弔っていることと敦盛の亡霊が現れ、平家の栄華と没落や自分の最期の様子を物語り、弔てくれる蓮生坊はもはや敵ではないとその回向を謝し消えてゆきます。「敦盛」が公達の修羅能であることが聴く人にイメージされるよう、優雅に瀟々しく語られます。

玄象

琵琶の名手藤原師長は国内に並ぶ者なしと唐に渡り奥儀を究めようとします。渡唐のためにやってくる須磨浦で老夫婦の塩屋に一夜の宿を借り、主人の所望のまま一曲弾くと、にわか村雨が降り来り板庇を打ち調子を乱します。すると老夫婦は苦で板屋を葺き、これで雨音と琵琶の音が同じ調子になりました、と言うので、師長はこの老夫婦が音楽を心得ていると見て曲を所望します。しかし夫婦が琵琶と琴で合奏する越天楽の見事さに、師長は、自分の己惚れを恥じ秘かに立ち去ろうとします。実は夫婦は、師長の渡唐を止めるために現れた村上天皇と梨壺女御の霊だったのです。やがて村上天皇の霊が現れ、海中の龍神に命じ龍宮に持ち去られた琵琶「獅子丸」を取り寄せ師長に授け、秘曲を伝えて昇天します。師長も琵琶を携え都へと帰っていきます。

素謡とは
能の台本(謡本)を、舞台上で謡う演奏形式です。謡うことと語ることで情景や心情を表現します。能には「源氏物語」や「平家物語」などの古典を題材にした名作が多く伝わっており、詞(詞章)の美しさは高い評価を得ています。素謡は、その二謡うことと語ること(詞)のみのシンプルな表現の面白さから、大正の頃より大変な流行となりました。また、京都には歴史的に「京観世」とよばれる「素謡」の文化があります。江戸初期寛文の時代、服部宗巴(九世観世大夫黒書)の弟、服部栞元の息のちに福王盛親が、西陣にあったといわれる観世屋敷で謡の教授をしたのが始まりです。以後、京都では能だけでなく、人々が謡だけをたしなむ「素謡」というジャンルが好まれ、連綿と受け継がれてきました。戦前は、京の辻々で謡の音がよく聞かれたそうです。情緒豊かな「素謡」をライブでじっくりと、聴いてみてください。

仕舞とは
能の一部(見せどころ)を、紋付袴姿で、謡にあわせて舞う演奏形式です。ほとんどの曲は扇を持ちますが、演目によっては長刀や杖などを持つものもあります。舞い手の骨格が見えやすいため、能のデッサンと評され、演者の個性と技を楽しめます。数分の演技で能の醍醐味が味わえるのが仕舞です。

遊行柳

諸国遊行の聖が、上総の国から陸奥へ向い白河の関を越えること人の老翁が現れ、先代の遊行上人が通られた古道を教え、古塚の上にある朽木の柳へと導きます。そして昔西行上人がこの所に立ち寄られ「道の辺に清水流るる柳蔭暫してこそ立ちとまりつれ」と詠まれた名木であることを教えます。老翁は上人の十念を授けると古塚に立ち寄ることを教えます。その夜、上人が念仏を唱えていると、柳の精が白髪の老人姿で現れ、非情の草木でありながら成仏できたことを喜び、柳に因んだ故事を語ります。「遊行柳」は観ても聴いても幽玄美の際だつ曲です。

夏の素謡と仕舞の会

日時 2019年7月14日(日) 午前11時開演(10時30分開場)
場所 京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町44
入場料 一般前売 4,500円 一般当日 5,500円 学生 2,500円

【お問い合わせ】 web予約も可能です。
TEL.075-771-6114 <http://www.kyoto-kanze.jp>

※お車の方は、会館東隣りの駐車場、または岡崎公園市営駐車場をご利用ください。
※見所内での写真撮影・録音・録画はご遠慮ください。
※携帯電話の着信音・時計のアラーム音が鳴らないよう、あらかじめ電源をお切りください。
※都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。



【交通アクセス】
京都駅から
●地下鉄烏丸線「国際会館ゆき」乗車「烏丸御池駅」にて地下鉄東西線「六地藏ゆき」「浜大津ゆき」に乗り換え「東山駅」下車出口1より北へ徒歩約7分
●京都駅前バスのりばD1より市バス100系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車(所要時間約45分)
四条河原町から
●バスのりばGより市バス46系統「東山仁王門」下車(所要時間約20分)
京阪三条駅から
●市バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 地下鉄東西線「東山駅」下車